



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ソーシャルメディア衛星開発プロジェクトSOMESATの参加者が持つ関心・ニーズ・共同体意識：質問紙調査などから
Author(s)	渡辺, 謙仁; Watanabe, Takahito
Description	日本情報経営学会(JSIM)第62回全国大会. 平成23年7月2日~7月3日. 神戸大学六甲台キャンパス.
Relation	日本情報経営学会(JSIM)第62回全国大会予稿集. pp.315-318.
Issue Date	2011
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49879
Rights	予稿集に掲載された論文等の権利は、日本情報経営学会に帰属します。
Type	conference paper
File Information	jsim62_watanabe2.pdf



ソーシャルメディア衛星開発プロジェクト SOMESAT の参加者が持つ関心・ニーズ・共同体意識 — 質問紙調査などから

*Concern, need and sense of community of participants of
SOMESAT(Social Media Satellite Development Project):
from questionnaire surveys*

北海道大学 渡辺謙仁
Hokkaido University Takahito Watanabe

1. はじめに

現在進行中のソーシャルメディア上で展開する宇宙を題材とした興味深い協働学習の例として、「ソーシャルメディア衛星開発プロジェクト SOMESAT (サムサット)」(図 1) が挙げられる。SOMESAT: Social Media Satellite Development Project は、人工衛星を社会の宇宙への関心を媒介するメディアとして捉えた上で、社会の注目を集めやすいキャラクター (初音ミクなど) を搭載して宇宙に打上げ、社会の反応を調べるために開発が進められている超小型衛星およびその開発プロジェクトである。ソーシャルメディアにおいては、異なるカテゴリのクリエイターたちの相互作用によってコンテンツが生成される (濱崎ほか 2010) ことがあるが、SOMESAT の開発は、特定の研究機関や大学、企業などによってではなく、また仕事縁や学閥などではなく、主にインターネット上で知り合った、異なるカテゴリの技術者や事務担当者たちの相互作用、つまりソーシャルメディア的な手法によって行われている。また衛星打上げ後は、キャラクターが宇宙でパフォーマンスを行

っている映像をソーシャルメディアに流すなど、ソーシャルメディアと連動した実践を行っていくことが考えられている。SOMESAT とは、ソーシャルメディアによる、ソーシャルメディアとしての衛星開発プロジェクトである。



図 1 SOMESAT ロゴ (SOMESAT 2009)

2. 先行研究

社会的文脈間の繋がりが固定化することなく、ますます流動化の一途をたどっている (香川 2008) 近年においては、文脈横断論的な学習論の重要性が高まっている。香川 (2008) によれば、文脈横断論で言う「文脈横断」とは、「人々が複数の文脈の間をまたいだり、文脈 (共同体) 同士がその境界を超えて結びついたりする現象」であり、「人々は、文脈横断の過程で、以前の文脈の中で

学んだことを現在参加する文脈に適用したり、文化（習慣や考え方など）の相違や葛藤を経験しながら、新たに学習したりする」。文脈横断論的な学習論には、「第三世代活動理論」（たとえば山住 2008）や「実践共同体（communities of practice）」（たとえば Wenger et al. 2002）の理論などが挙げられる。

また香川（2008）は、文脈横断論は「人間科学」に位置し、「特定のローカルな時空間固有の複雑な社会文化的実践を、その具体性を崩さぬまま解明」するものであり、「時に現場の当事者達と協同で現場変革を試みる」ものであるとする。人間科学はフィールドワークを伴い、「厳密に定義された既存の概念と理論から出発する代わりに、問題を大まかに示すだけの『感受概念』を出発点とする」（Flick 2007）ものである。

以上の議論を踏まえると、ソーシャルメディアなどの利用者参加型のメディアにおいても、メディアやコンテンツへの参加と言う形で、利用者が何らかの学習を行っていることになる。Wengerら（2005）も、（ソーシャルメディアなどの）情報技術の進歩によって、実践共同体が進化している。また東郷（2008）は、市民が主体的に活動している熊本県八代市の地域 SNS : Social Networking Service を取上げ、SNS を道具として生起した市民の文脈横断学習を、活動理論を基に分析している。

文脈横断論の視座からは、SOMESAT では、ソーシャルメディア的な実践への参加によって技術者や事務担当者たちが文脈横断学習をして、またソーシャルメディアを介して市民に宇宙に関わる実践に参加してもらうことが目指されていると言える。SOMESAT は、文脈の断絶に伴って個人や共同体、さらには社会が抱える問題を、ソーシャルメディアの活用によって異なる文脈を横断することで克服し、個人や共同体、および社会の発達を促す実践のモデルケースになるものである。

3. 目的

SOMESAT はインターネット上で集まった

人々による実践であることもあり、これまでの参与観察から参加者が持つ参加を決定付けられると思われた関心（宇宙、自主工作、キャラクターなど）やニーズ、共同体に対する意識などは様々であると考えられる。本研究では、それらを中心に調査して SOMESAT を大まかに捉え、結果を実践に生かすことを目指した。

4. 方法

本研究では、SOMESAT を量的な意味でも大まかに捉えることを目的に、質問紙調査を行った。科学技術への関心を調べた小宮（2005）や、越境（文脈横断）学習する人びとのニーズなどを調べた中原（2010）を参考に、36 項目の 5 件法、自由記述法などによる質問項目を作成した。オフラインのイベントに参加した SOMESAT の参加者（メンバー）を対象に調査を行い、SOMESAT 関西勉強会（日付：2011 年 2 月 6 日、於：大阪コロナホテル）で 16 標本、SOMESAT が参加した同人誌即売会「ニコつく」（日付：2011 年 2 月 12 日、於：東京流通センター）で 2 標本を得て、それらの結果を合算した。なお、今回の調査結果は SOMESAT のメンバーの中でもオフラインのイベントの参加者を対象に得られたものであるため、必ずしも SOMESAT のメンバー全員の実態を反映していない可能性がある。また社会に大きな衝撃を与えた東日本大震災の前に得られたものであるため、メンバーが現在持つ意識とは異なる可能性がある。

5. 結果と考察

紙面の都合上、調査結果のうち重要なものを取り上げ、考察を加える。

5.1 人口統計的変数

（ア）性別

全員、男性であった。

（イ）年齢

何歳代か聞いたところ、平均は 27 歳、分布は図 2 の通りとなった。30 代(39%)と 20 代(33%)が多い。

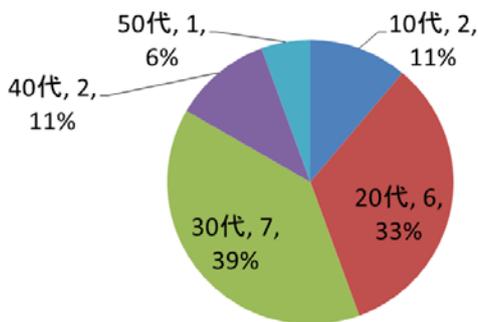


図2 年齢 (N=18, M=27)

5.2 関心

まず小宮 (2005) による関心対象のうち、天文分野、宇宙航空分野、無線分野を参考にして選択肢を構成し、次に SOMESAT が生まれた元になったニコニコ技術部¹⁾とボーカロイド²⁾を選択肢に加えた。選択肢のうち、特に関心を持つものを1位から3位まで聞き、回答した人数を集計したところ、図3のようになった。

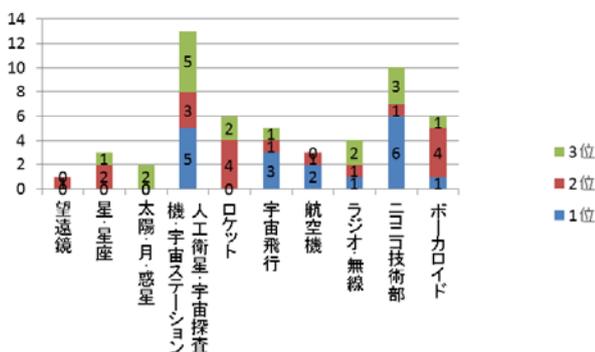


図3 特に関心を持つもの1位から3位 (N=18)

1番目に関心を持つものではニコニコ技術部が6人で最も多いが、関心の順位1位から3位までを合計したものだと、人工衛星・宇宙探査機・宇宙ステーションのいわゆる宇宙機が13人で最も多い。特筆すべきは、SOMESATはボーカロイドの一つである初音ミクを衛星に載せるプロジェクトであるにもかかわらず、ボーカロイドを1位に挙げた人は1人しかいなかったことである。また、望遠鏡、星・星座、太陽・月・惑星といった天文分野はほとんど関心を持たれていない。昔から良く言われることだが、天文への関心と宇宙航空への関心は違うということであろう。

全体として SOMESAT は、宇宙機とニコニコ技術部、両方の関心を共有する共同体であると言える。

5.3 ニーズ

中原 (2010) を参考に、越境 (文脈横断) 学習に対するニーズを5件法で聞いた (図4)。紙面の都合上、質問文ではなく、質問文で聞きたかったニーズを書いている。ラーニングニーズ (M=4.6) やフレンドシップ (M=4.1) の平均点が高いのは想像に難くないが、特筆すべきは、イノベーション (M=4.2) やプロフェッショナル・ボランティア (M=4.1) の平均点が高いことである。

全体として SOMESAT は、視野拡大欲求を共有し、社会的インパクト・社会的意義を求める共同体であると言える。

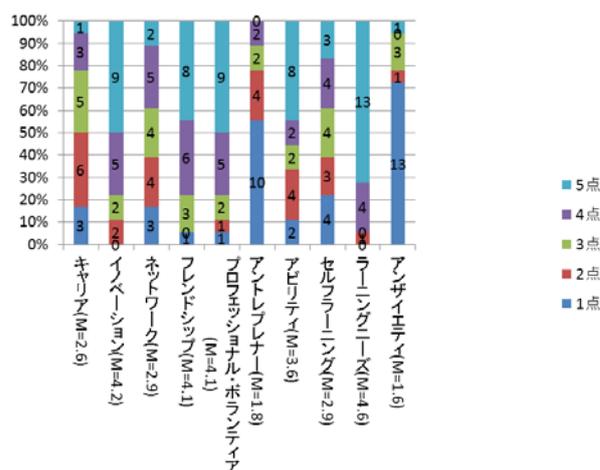


図4 5件法で聞いたニーズ (N=18)

5.4 共同体に対する意識

図5は、共同体の様々な側面に対する意識を5件法で聞いた結果である。紙面の都合上、質問文を要約して書いている。「ソーシャルメディアは役立っている」(M=4.2)よりも、「オフラインは役立っている」(M=4.7)の方が平均点が高いことが分かる。SOMESATは主にソーシャルメディア上での活動だが、オフラインの活動も非常に重視されている。

6. まとめと今後の課題

SOMESATは共同体として、主に30代以下の

若年層が、宇宙機とニコニコ技術部という若干異なる分野に横断的な関心を持ち、視野拡大や社会的インパクト・社会的意義に関する文脈横断学習ニーズを持ち、オフラインの活動も重視している実践であると言えよう。

今後は今回の結果を踏まえ、共同体が持つ関心やニーズが満たされ、実践の変革に繋がるようにしたい。また今回垣間見えたニーズが、具体的にどのような学習に繋がっていくのかなど、文脈横断論の視座から研究を質的にも量的にもより精緻化していきたい。

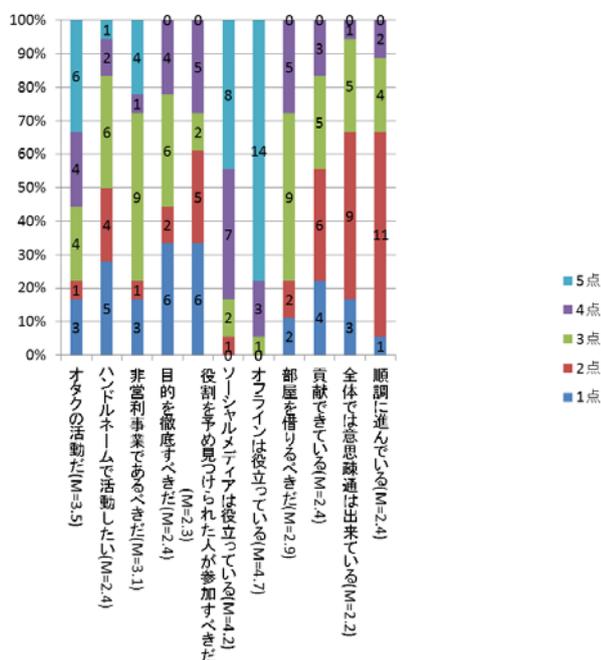


図5 5件法で聞いた共同体に対する意識 (N=18)

注

- 1) 部員を自負する者は、自主工作の様子を撮影した動画をニコニコ動画に投稿したり、つくったものをオフラインのイベントで披露しあったりする。組織や入部資格があるわけではない。
- 2) ユーザーがメロディと歌詞を入力すると、内蔵音声による歌を作成できるソフトウェア、およびその擬人化キャラクター。

参考文献

Wenger, E., White, N., Smith, J. D. & Rowe, K. (2005) Technology for communities.

http://technologyforcommunities.com/CEFRIO_Book_Chapter_v_5.2.pdf

Wenger, E., McDermott, R. & Snyder, W. M. (2002) *Cultivating communities of practice*. Boston : Harvard Business School Press 野村恭彦 (監修) 櫻井裕子 (訳) (2002) コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践—. 翔泳社

香川秀太 (2008) 「複数の文脈を横断する学習」への活動理論的アプローチ—学習転移論から文脈横断論への変移と差異. 心理学評論 51 (4) : 463-484

小宮泉 (2005) 第3回東工大 Inter-COE21 シンポジウムアンケート結果分析. 東工大クロニクル 404

SOMESAT (2009) SOMESAT ロゴ

<http://j.nicotech.jp/somesat>

東郷寛 (2008) 活動理論による市民対話の活動システム分析：市民対話を媒介する「道具」の変化を例として. 日本経営診断学会論集 8 (0) : 239-245

中原淳 (2010) 職場学習論—仕事の学びを科学する. 東京大学出版会

濱崎雅弘・武田英明・西村拓一 (2010) 動画共有サイトにおける大規模な協調的創造活動の創発のネットワーク分析：ニコニコ動画における初音ミク動画コミュニティを対象として. 人工知能学会論文誌 25 (1) : 157-167

Flick, U. (2007) *QUALITATIVE SOZIALFORSCHUNG*.

Rowohlt Verlag GmbH 小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子 (訳) (2011) 質的研究入門—<人間の科学>のための方法論. 春秋社

山住勝彦 (2008) ネットワークからノットワーキングへ—活動理論の新しい世代. ノットワーキング 結び合う人間活動の創造へ. 新曜社